

「エルガイアおおい」の概要

1. 施設概要

名 称 : エルガイアおおい



*名称の由来

EL=電気 (Electricity) の意味。

GAIA=ギリシャ神話の大地の女神。「地球」の意もある。

エネルギーと地球の未来を考える、という意義を込めた造語。

所在地 : 福井県大飯郡おおい町成海1号2番

延床面積 : 2,686.12㎡

展示面積 : 1,296.48㎡

開館予定 : 2008年7月20日 (日)

2. 施設コンセプト : 「考えよう! エネルギーの未来と地球の未来」

3. 施設内容 : 大きく3つのゾーンで構成されており、エネルギーや地球環境についてさまざまな形で楽しみながら学んでいただけます。

- ①『シアターガイア』は、「バーチャルリアリティ(VR)システム」というデジタル映像システムを採用した展示映像ゾーンです。
- ②『コスモユニット・エネルギーガイア』は、宇宙に飛び出した発電所をテーマにした参加体験型シミュレータゾーンです。
- ③『展示パネルゾーン』は、おおい町紹介映像などの地域紹介展示や、地球温暖化防止活動に関するパネル展示などを予定しています。

4. 館内各施設の特徴

①超大型映像シアター『シアターガイア』



シアター入場時の演出イメージ

(客席数80席、車椅子用スペース12席)

全幅22メートル、全高6メートル、視野角120度のカーブスクリーンに、映像システム「トッパンVRシステム」を採用した、超大型映像シアターです。

コンピュータで生成された高精細3次元CGの映像の中を移動しながら、まるでその空間の中に居るかのような没入感を体験することが可能です。

コンテンツは、当社オリジナルの「地球環境をテーマにした仮想ミュージアム見学」(地球環境をテーマにしたミュージアムをバーチャル空間に構築し、地球環境について学びながら、選択しうるエネルギーは何かを考える作品)や、「原子力発電所バーチャル見学」(バーチャル空間に構築した発電所の見学をメインに、原子力発電の原理や仕組みなどについて体感的に学べる作品)のほか、「ナスカ」などのVR映像作品(「6.『シアターガイア』VR映像作品」参照)を上映します。

②展示室『コスモユニット・エネルギー』



展示室イメージ

松本 零士氏のプロデュースによる企画展示室です。

「21世紀後半、地球のエネルギー危機を救うために作られた宇宙発電所」の「コントロールユニットに設けられた、来訪者向けのビクターセンター」という空間設定で、オリジナルキャラクターとともに宇宙発電所のスタッフの活動をバーチャル体験できます。

③展示パネルゾーン



エントランス付近イメージ

エントランスには、おおい町の紹介映像を中心とした地域紹介展示があります。また、大型グラフィックパネルで「エルガイア おおい」の概要を紹介します。

その他、親しみやすいナビゲーター役のキャラクターが原子力発電を紹介するグラフィックパネル展示や、関西電力の地球温暖化問題への取り組みを紹介するパネル展示も行います。

5. 外観完成予想図



6. 『シアターガイア』VR映像作品（予定）

『シアターガイア』では、凸版印刷㈱様が制作した豊富なVR映像作品の中から、話題性の高い作品を選び、順次上映していきます。

■2008年7月～9月：「ナスカ」

●概要

800キロ平方メートルの平原に描かれたナスカの地上絵。広大な自然環境と雰囲気、地上絵の存在感と感動を、壮大なスケールで鑑賞するコンテンツ。



●特長

主要なナスカの地上絵やフマナ・パンパ平原の広大な自然環境を再現。VRの自由な視点移動により、低空でしか見られない繊細な地上絵から、高度が上がると浮かび上がってくる巨大なラインや図形まで鑑賞することができます。また、地面に立った視点から地上絵の仕組みを観察するなど、ナスカの図像を様々な角度から鑑賞できます。



■2008年10月～09年3月：「江戸城ー本丸御殿と天守ー」

●概要

築城550年、世界的大都市「江戸」のシンボル江戸城を、史料、学術的研究成果を交えて大規模に再現。江戸城を外と中から散策するコンテンツ。



●特長

現存しない建築物を再現するという、VRの特長を存分に活かした作品です。VRの細密な映像クオリティで再現された江戸城は、空から全体を俯瞰することも、中を歩き回することも可能。VRならではの自由な視点で江戸城を体感できます。また、大火により4度焼け、ついに再建されることなかった「幻の天守」も再現しています。



■2009年4月～9月：「マヤ文明 コパン遺跡」

●概要

VR技術と考古学の研究成果を一体化。仮想考古学でコパン遺跡をめぐり、マヤ文明を体験するコンテンツ。



現在のコパン遺跡



1200年前のコパン遺跡



●特長

マヤ文明を代表する遺跡の一つで、1980年にユネスコの世界遺産に登録されているコパン遺跡の現在の姿と、衰退を前にした1200年前の姿を再現。遺跡保存のため現在は公開されていないマルガリータ神殿も観賞できます。また、観賞だけでなく、考古学の最新の調査結果が一体となってできた仮想考古学として、文化遺産の研究や保存、学習や教育における新しい方法論を展開するコンテンツです。

7. 参考資料

松本零士(まつもとれいじ)氏のプロフィール

1938年、福岡県久留米市生まれ。

1953年、『蜜蜂の冒険』で漫画家デビューし、同作品で「漫画少年」第一回新人王を受賞。

1972年、『男おいどん』で講談社出版文化賞漫画部門賞を受賞。

1971年から制作されていた『宇宙戦艦ヤマト』は1974年にアニメ化、映画化され、記録的なヒット。

また、1972年からは『銀河鉄道999』の連載を開始し、話題を巻き起こす。

1978年、『銀河鉄道999』、『戦場まんがシリーズ』で第32回小学館漫画賞、日本漫画協会の賞を受賞。

1979年 第24回映画の日特別功労賞を受賞。

近年ではフランスのロックバンド、ダフトパンクのプロモーションビデオ製作が話題を呼んだほか、諸外国との映画、アニメの製作プロジェクトなども進行中。宇宙・SFをモチーフに、人間の成長という深いテーマを描く壮大な作風は、少年だけでなく、広く大人にまで読まれている。

SF漫画の第一人者として現在も多くの作品を発表する一方で、日本宇宙少年団理事長、中央青少年団体協議会会長、宇宙開発委員会専門委員など多くの役職を兼任している。

「トッパンVRシステム」とは

「エルガイアおおい」の大型映像シアターに採用している「トッパンVRシステム」は、単に映画や映像を上映するシアターではなく、コンピュータで生成された高精細3次元コンピュータ・グラフィックスの映像の中を自由に移動しながら、鑑賞者はまるでその空間の中に居るかのような没入感を体験することができる特殊な映像システムです。

本シアターのスクリーンは、投影される映像を1/1スケール(等倍)で見ただけのよう、高さ6m 横幅22mとし、客席からの視野角は120度を確保しています。なお、「トッパンVRシステム」としては、世界最大級のスクリーンサイズとなっています。

「うみんぴあ大飯」について

福井県大飯郡おおい町にオープンする「うみんぴあ大飯」は、若狭の海と緑に囲まれた豊かな自然環境と、町の風土、そして地域住民のエネルギーを存分に活かした新しいまちづくりプロジェクトです。基本コンセプトは“みんなが集い・楽しみ・安らぐ「海が元気をくれるまち」”。

健康・癒し、交流・感動、エデュテイメント(※エデュケーションとエンターテイメントの合成語で、楽しみながら学ぶことを表す)、環境重視をキーワードに、21.8ヘクタールの広大な開発区域にホテル・温浴施設、マリナー等の施設が展開されます。

2009年夏のグランドオープンに先立ち、2008年夏、関西電力「エルガイアおおい」がオープンします。

「エルガイアおおい」位置図

(「うみんぴあ大飯」ウェブサイトより抜粋の上、一部加工)

「うみんぴあ大飯」エリア



ELGAIA
OHI
エルガイアおおい